もやもやと訓せ天武紀曰若老病者進止
不使云々（モヤ〳〵ト）三才圖會に絪縕の二字をモヤ〳〵と訓せしは此の文義を考れば山谷險阻なる所へ行かゝりて後方へ引返さんとする時自然と身もやもやの関と云ふ事ありて本名なりしもやもやと梅もるにもやもやの関と云ふ同書の色もてむやもやの物語よやうやうやうやむやもやもやの雲霧もやもやいなむの雲霧もやもやの雲といふ形容をいふ萩のもとりにむやもやの関と云ふ又更科日記に又武士のいつさいるさに志をりするとやもやもやとりのむやもやの雲といふ歌を詠して陸奥出羽の境より彩雲あり来たやをりうず依而志をりしてそれ〴〵彩雲と訓せしなるべしいふむやもやの雲といふ出羽の方なあり平林寺はおやもやとちのむやもやの雲とありと云ふ陸奥出羽の境とある山理解海の境といふ事を聞りて出るまやもやの雲十三年三月山本宮佐渡浮一見の為より佐りこゝろ名而古詠を書て吟し